年間授業計画 様式例

高等学校 令和８年度（１学年用） 教科　芸術　科目 音楽Ⅰ

教 科： 芸術　科 目： 音楽Ⅰ　単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（12組： ）（34組： ）（56組： ）（78組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ Mousa 1 ）

教科 芸術　の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】表現・技能に必要な知識と、基本的な表現技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品・演奏について、根拠を持って評価・判断し、次段階の表現につなげることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、自らいろいろな角度から取り組むよう努力している。

科目 音楽Ⅰ　の目標：　音楽的なものの見方・考え方を身につけ、生活の中の音楽や音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・基本的な読譜力を身に着ける。 ・基本的な歌唱法を身に着ける。 ・基本的なキーボードおよびギターの奏法およびアンサンブルの手法を身に着ける。	・楽譜から求められるべき表現を考える。 ・他人に自分の考えをどうしたら伝えられるか考える。	・様々な表現について、いくつかの可能性を自ら考え、試みることができる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 歌	表現 器	表現 創	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	＜歌唱＞ 【知識及び技能】身体の使い方を知る。楽に声を出せる方法を知る。 【思考力、判断力、表現力等】 自分／他人が出している声に無理がないかどうか判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 「声を出す」ことに対して前向きに取り組む。	・教科書 ・教材（教員作成プリント） ・一人１台端末で「よい姿勢」「よい口の開け方」等を知る。	○			○	【知識・技能】 身体の仕組み・身体の使い方を実際に自らの身体で確認する。 【思考・判断・表現】 他人の動き方をみて、動きと声がどのように連動しているか考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の身体と表現について関心を持って観察しているかどうか。	○	○	○	8
	＜器楽＞ 【知識及び技能】音楽の三要素を知り、その第一である「リズム」の考え方を知る。 【思考力、判断力、表現力等】 正確なリズム／表現力のあるリズム感の差について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 正確なリズムをどうしたら叩けるか、理論的に考える。	・教科書 ・教材（教員作成プリント） ・リズムの表現を他人に伝えるために必要なことを体得する。		○	○	○	【知識・技能】 リズムとは何かを理解し、楽譜を読んですぐ表現できるようにする。 【思考・判断・表現】 リズムを正しく演奏しているかどうか、リズム感を感じて表現しているかどうかを判断しながら表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の表現について、様々な角度から考えているかどうか。		○	○	10
	＜鑑賞＞ 【知識・技能】ポイントを絞って聴く方法を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 「表情が伝わる方法」について自ら考える。 【学びに向かう力、人間性等】 他人のよい表現を聴きとれるようにする。	・教科書 ・教材（教員作成プリント） ・一人１台端末で「耳」と「目」の良い表現を自分のペースで観察する。				○	【知識・技能】 「音楽を聴くときの各種のポイント」について理解する。 【思考・判断・表現】 「よい」と「そうでもない」の判断基準の差がとこにあるか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 他人の表現に対して「よい」「悪い」だけでなく、具体的に言語化しているかどうか。	○	○		4
	＜音楽理論＞ 「音楽作品を深く理解するための手立て」としての楽曲構成のありかたを考える。 以降の「創作」に生かせるように理解する。	・教科書 ・教材（教員作成プリント） ・楽譜を「図面」と見立て、その構成を見抜けるようにする。			○		【知識・技能】 基本的な楽曲構成について知る。 【思考・判断・表現】 構成が「全体の雰囲気」を作るためにどのように機能しているか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 楽曲構成を無味乾燥な理屈ではなく、「良い表現を生み出すための手段」として考えているかどうか。	○	○		4
2学期	＜歌唱＞ ①１曲を通して、説得力ある表現で歌えるようにする。 ②二重唱について、両パートとも歌えるようにし、相手の音を聴きながら演奏できるようにする。	・教科書 ・教材（教員作成プリント） ・一人１台端末	○			○	【知識・技能】 正確なリズム・音程で歌えるようにする。 【思考・判断・表現】 相手と自分の出している音同士があっているかどうか、バランスはどうか、聴いて判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ２人以上で１つのまとまった表現を作ろうとしているかどうか。	○	○	○	8
	＜器楽＞ ① ギターおよびキーボードの基本的な奏法について学ぶ。 ② 「他人と合わせてできあがる演奏」に必要なことを考え、ギターのみによる２～４人程度のアンサンブルを実践する。	・教科書 ・教材（教員作成プリント） ・一人１台端末	○	○		○	【知識・技能】 正しい身体の使い方を学び、正しく読譜できるようにする。 【思考・判断・表現】 相手の音を聴きながらバランスやタイミングについて判断できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数人で１つのまとまった表現を作ろうとしているかどうか。	○	○	○	18
3学期	＜創作＞ ①設定された条件の中で、２～４小節程度の旋律を作る。 ②人の呼吸や情感に沿った旋律のつくりかどうか、判断できるようにする。	・教科書 ・教材（教員作成プリント） ・一人１台端末			○	○	【知識・技能】 過去の音楽作品がどのような旋律の作法によっているかを知る。 【思考・判断・表現】 人間のさまざまな感情の流れに沿った旋律になっているかどうかを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 聴き手を念頭においた表現になっているかどうかを自ら検討する。	○	○	○	4
	＜器楽＞ キーボードを中心として、異なる楽器群とのアンサンブルを試みる。	・教科書 ・教材（教員作成プリント） ・一人１台端末		○		○	【知識・技能】 楽譜に書いてある情報を正確に理解・再現できるようにする。 【思考・判断・表現】 キーボードで出せる多数の音色を試行し、自分の作りたい表現に合う音を探す。 また、パート同士のバランスについても考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 全体のバランスや構成・アレンジについて複数の視点をもっているかどうか。	○	○	○	14 合計 70